

●初期消火の目的＝火災を早期発見し、被害を最小限にとどめること

1 火災発生



電話が長引いているうちに、油鍋に火が入りました！

2 初期消火判断



天井まで火は届いていません。
まだ消すことができます。

「火事だ！火事だ！」と叫びながら、
周囲に火災を知らせます。

3 消火器の準備



慌てずに消火器を準備します



火元に向けて消火剤を放出します。
火が消えたら、ガスの元栓を閉めます。

※ 消火後、天ぷら鍋の温度が完全に下がったことを確認してください。

4 消火活動



●よくある失敗例（油鍋に水）



油鍋に向かって水をかけると、炎が飛び散ってしまい大変危険です。

屋内消火栓には2つのタイプがあり、それぞれ操作要領が違います。

1 1号消火栓

1号消火栓は、ホースが折りたたまれて消火栓ボックスに収納されているため、ホースを延長した後でないと水をホース内に流すことができません。このため、ホースを火元付近まで延長し放水する人と消火栓のバルブを開放する人の、最低でも2人の操作員が必要となります。

①消火栓ポンプ起動



発信機のボタンを押し、消火栓ポンプを起動します。

②ホース延長



ホースにねじれがないように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。

③バルブ開放・放水

出火箇所に接近した操作員の放水準備ができたなら「放水はじめ！」の合図で、消火栓のバルブを開放し放水します。



注意

ホースを延長する前にバルブを開けると、水で充満したホースがボックス内に拡がって取り出せなくなる事があります。必ず操作手順を守ってください。



2 2号消火栓・易操作性1号消火栓

2号消火栓・易操作性1号消火栓は、ホースがドラムに収納されているため、収納状態でもホース内に水を流すことができます。このため、一人で操作することができます。

①バルブ開放

バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。



②ホース延長



ホースを持ちながら、出火箇所に向かいます。

③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。



注意

1. 訓練中は安全を管理する担当者を設けましょう。
2. ホースを延長するとき障害となる物がないか確認しましょう。
3. 放水する時はノズルから絶対に手をはなさないようにしましょう。
4. 火災の時、いきなりドアを開けると空気（酸素）が流れ込み一気に火勢が強まる場合がありますので、まずドアを少し開いて、様子を見てからドアを開けましょう。